

令和6年度広島県合同輸血療法委員会活動報告書

令和7年3月

広島県合同輸血療法委員会

はじめに

広島県合同輸血療法委員会では、医療機関における輸血療法委員会相互の情報交換を図り、広島県内における輸血医療の標準化をめざすべく、平成23年度より活動して参りました。

令和6年度は、令和2年度に血液製剤使用適正化方策調査研究事業費で作成した「災害時における医療機関間の輸血用血液製剤の譲受・譲渡（融通）に関する指針（以下、指針）」をもとに、災害時におけるドローン輸送に関する検討を行うとともに、能登半島地震発生を受け、現場ではどのように医療を提供され、血液製剤はどのように供給されたのか、研修会を企画し、災害時の備えについてより一層理解を深めることができました。

また、近年、人免疫グロブリン製剤の需要が高まっていることから、日本輸血・細胞治療学会が実施している血液製剤使用実態調査結果を利用し、令和元年度から5年間の広島県内の人免疫グロブリン製剤の使用量、購入量、廃棄量の推移について確認し、県内の現状を把握することができました。

本事業の実施に当たっては、本委員会委員の所属の御支援・御協力をいただき、実施しています。

関係諸氏に感謝を申し上げますとともに、今後とも更なる御支援をお願いする次第であります。

本報告書については、皆様にご一読いただき、ご活用いただければ幸甚に存じます。

令和7年3月

広島県合同輸血療法委員会
委員長 藤井 輝久

,

目 次

(頁)

はじめに

令和6年度広島県合同輸血療法委員会活動状況	1
1. 委員会	
2. 幹事会	
3. 研修会	
4. 血液製剤使用適正化方策調査研究事業について	
ア 研究目的	
イ 研究の概要	
ウ 研究方法	
エ 研究結果	
5. 血液製剤使用実態調査結果利用に関する申請について	
ア 調査目的	
イ 調査方法	
ウ 調査結果	
資料	8
(1) 血液製剤使用実態調査結果利用に関する申請書	9
(2) 広島県合同輸血療法委員会設置要綱	10
(3) 小委員会設置要綱	11
(4) 広島県合同輸血療法委員会委員名簿	12
(5) 広島県合同輸血療法委員会小委員会名簿	13
(6) これまでの取組	14

令和6年度広島県合同輸血療法委員会活動状況

1 広島県合同輸血療法委員会

日時：令和6年7月13日（土）15：00～17：00

場所：ウェブ開催（Zoom）

議題：（1） 役員の選任

資料（7）の通り役員が選任された。

（2） 令和5年度事業報告

ア 令和5年度血液製剤使用適正化方策調査研究事業報告

- ・令和5年8月31日付けで採択された。
- ・模擬訓練を実施し、指針の改定を実施した。

イ 広島県合同輸血療法研修会の振り返り

ウ 令和6年度事業の検討

- ・令和6年度血液製剤使用適正化方策調査研究事業のテーマとして、策定した指針を基に、緊急時の搬送手段として、広島県赤十字血液センターからドローンによる血液製剤輸送（以下、ドローン輸送）が可能かどうかについて、提案。
- ・令和5年10月20日付で厚生労働省医薬局血液対策課から事務連絡「人免疫グロブリン製剤の安定供給に向けた周知について」が発出されており、広島県内の医療機関からも人免疫グロブリン製剤の限定出荷に関する問い合わせがあったことから、広島県内の人免疫グロブリン製剤の需要供給について把握することを提案。また、状況を把握するために、日本輸血・細胞治療学会が実施している血液製剤使用実態調査結果を利用することについて了承を得た。

2 広島県合同輸血療法委員会幹事会

令和6年度	第1回	第2回	第3回
日 時	4月17日(水) 18:00~19:00	10月7日(月) 18:00~19:00	1月14日(月) 18:00~19:00
方 法	ウェブ開催 (Zoom)		
議 題	<ul style="list-style-type: none"> ・血液製剤使用適正化方策調査研究事業について ・全体会議について ・今年度事業について 	<ul style="list-style-type: none"> ・血液製剤使用適正化方策調査研究事業について ・血液製剤使用実態調査結果利用に関する申請について ・合同輸血療法研修会開催について 	<ul style="list-style-type: none"> ・血液製剤使用適正化方策調査研究事業の進捗状況について ・献血血液の研究開発等への使用に関する公募(令和7年度使用分)申請について ・血液製剤使用実態調査結果利用申請に基づくデータ共有について ・合同輸血療法研修会について

3 合同輸血療法研修会

日 時：令和7年2月8日（土） 15：00～17：00

方 法：ハイブリッド開催

現地：広島県赤十字血液センター（広島県広島市中区千田町2丁目5-5）

ウェブ：teams 配信

参加者数：87名（現地：7名、ウェブ：80名）

（医師 ， 薬剤師 ， 看護師 ， 臨床検査技師 ， その他 ）

内 容：

広島県合同輸血療法委員会からの報告

報告1 災害時における輸血用血液製剤のドローン輸送に係る情報提供について

報告2 広島県の免疫グロブリン製剤の購入量等の推移について

特別講演「能登半島地震での災害について

奥能登の医療状況と血液センターの対応を中心に」

日本赤十字社東海北陸ブロック血液センター石川製造所 安村 敏

4 血液製剤使用適正化方策調査研究事業について

令和6年8月15日付で令和6年度血液製剤使用適正化方策調査研究事業研究計画書を提出した結果、不採択となったが、当初の予定通り、研究事業を実施した。

ア 研究目的

「災害時等における医療機関間の輸血用血液製剤の譲受・譲渡(融通)」の実効性の向上を本研究の目的とする。

イ 研究の概要

災害等により血液センターから輸血用血液製剤が供給できなくなった場合や、医療機関の孤立等により製剤が速やかに届かず患者の救命に支障をきたす事態が生じた場合に備え、近隣医療機関との血液製剤の供給連携の可能性を把握するとともに、緊急的に地域の医療機関で協力して、血液製剤の供給を可能とする具体的な仕組みを検討し、構築することを本研究の目的として、令和2年度、本県独自の「災害時等における医療機関間の輸血用血液製剤の譲受・譲渡(融通)に関する指針」(以下「指針」という。)を策定した。これまで、防災ヘリによる搬送フローの作成、協定締結上の課題抽出、対象製剤拡充に係る模擬訓練の実施・検証等により指針をより実効性のあるものに改定し、課題解決を図ってきた。

一方で、山間へき地や離島等において、緊急大量輸血の必要性が生じた場合、近隣で在庫していない医療機関も多いことが想定される。そのため、血液センターからの搬送体制も強化する必要があるが、血液センターが医療機関へ専ら車による陸路での搬送に頼っている現状があることから、陸路が遮断された場合の海路、空路による具体的な搬送手段を早急に検討する必要がある。

そこで、これらの課題を解決する一つ的手段として、無人航空機(ドローン)を用いた空路での搬送体制の構築を検討する。

ウ 研究方法

血液センターを中心としてドローン輸送の先行事例を調査研究するとともに、本県での実情に応じた体制を検討するとともに、技術力、公益性、安定性のある専門のドローン事業者へヒアリングを実施する。

エ 研究結果

先行事例の調査研究及びドローン事業を推進している業者へヒアリングを実施した結果、次の課題が挙げられた。

課題	ドローン機体	血液製剤
機体による条件	<input type="checkbox"/> 高価（日本製800万円など） <input type="checkbox"/> 製造国の確認 <input type="checkbox"/> 搬送可能なサイズ、重量 <small>（バッテリーが重く、積載可能重量が課題）</small> <input type="checkbox"/> 輸送時のセキュリティ <small>（ロック機能やカメラ搭載が必要）</small>	<input type="checkbox"/> 重量（1本の搬送で3kg、20本で30kg※冷媒等梱包材含む） <input type="checkbox"/> 温度・振動(GDPガイドラインを満たす必要がある) <input type="checkbox"/> 検体確保(血液製剤だと研究使用のため、事前申請が必要、ダミーでの実施も検討) <input type="checkbox"/> 輸送時のセキュリティ（ドローンが水中に墜落した場合、どうするか。）
資格・専門的知識	<input type="checkbox"/> 操縦者 <small>（飛行レベルに応じた資格者の配置）</small> <input type="checkbox"/> 飛行ルートの作成・確保 <small>（事前作成・航空局へ提出、人口集中地区の上空の飛行はハードルが高い）</small> <input type="checkbox"/> 発着場所（飛行条件によって、資格者の立合やポイントの設置が必要）	

については、血液製剤を輸送することは、機体の性能や法規制の観点からハードルが高いことが分かった。今後、これらの課題解決に向けた協議・検討を重ねるとともに、引き続き、情報収集に努める必要がある。

5 血液製剤使用実態調査結果利用に関する申請について

ア 調査目的

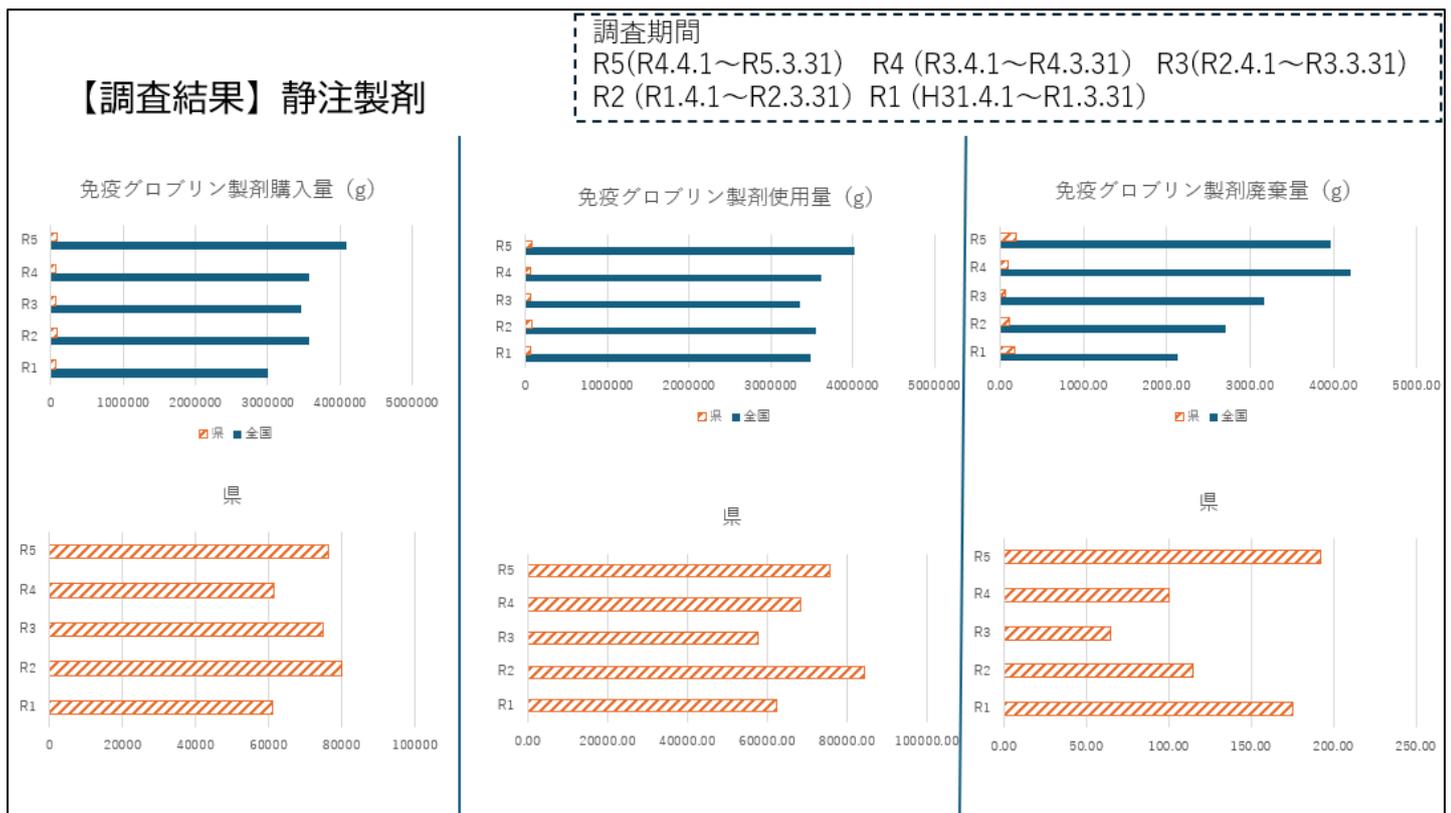
令和5年10月20日付で厚生労働省医薬局血液対策課から事務連絡「人免疫グロブリン製剤の安定供給に向けた周知について」が発出されており、広島県内の医療機関からも人免疫グロブリン製剤の限定出荷に関する問い合わせがあったことから、広島県内の人免疫グロブリン製剤の需要供給の状況について把握するため、広島県内の過去5年間の免疫グロブリン製剤の購入量・使用量・廃棄量の推移を確認すること。

イ 調査方法

令和6年9月13日付で血液製剤使用実態調査結果利用に関する申請（資料（1）のとおり）を実施した。

ウ 調査結果

提供いただいたデータを基に広島県内の過去5年間の免疫グロブリン製剤の購入量・使用量・廃棄量の推移を確認した。

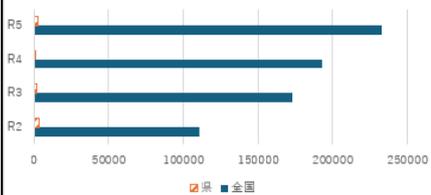


【調査結果】皮下注製剤

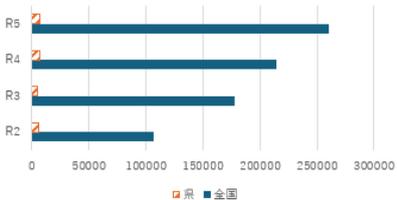
調査期間

R5(R4.4.1～R5.3.31) R4(R3.4.1～R4.3.31) R3(R2.4.1～R3.3.31)
R2(R1.4.1～R2.3.31) R1(H31.4.1～R1.3.31)

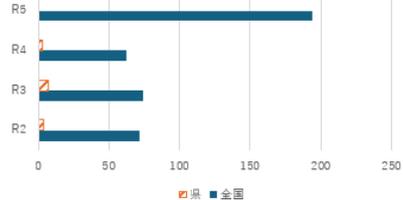
免疫グロブリン製剤購入量 (g)



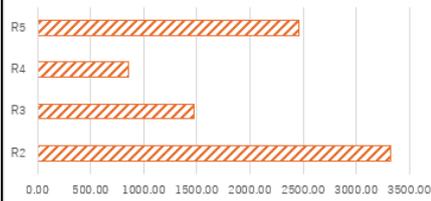
免疫グロブリン製剤使用量 (g)



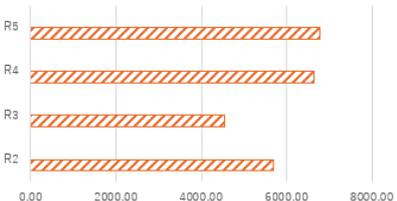
免疫グロブリン製剤廃棄量 (g)



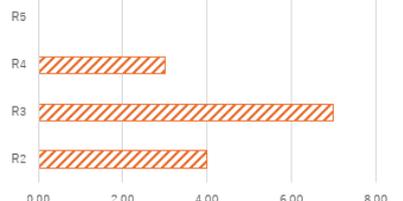
県



県



県



(1) 血液製剤使用実態調査結果利用に関する申請書

日本輸血・細胞治療学会 理事運営委員会 殿

血液製剤使用実態調査結果利用に関する申請書

提出日2024年9月13日

申請者名 (所属・部署)	広島県健康福祉局 渥美 真梨菜 印
合同輸血療法委員会名	広島県合同輸血療法委員会
本学会担当理事名 もしくは本学会委員長名	藤井 輝久
使用目的	広島県内の過去5年間の免疫グロブリン製剤の購入量・使用量・廃棄量の推移を確認するため。
使用調査結果項目 (具体的に 〇〇県の〇〇年の設問〇～〇など)	別紙 (エクセルファイル) のとおり
発表方法 (例えば、学会誌第〇巻第〇号への 投稿、第〇回学術集会での発表など)	広島県合同輸血療法委員会でも共有及び同委員会が 主催する研修会で発表
データ提供希望日 (理事運営委員会で討議しますので 希望日には間に合わずお待ち いただく場合もございます)	令和6年10月から11月

理事運営委員会結果 承認する 承認しない

回答日20 年 月 日

注) 発表の際には理事運営委員会で承認されていることを明記して下さい。

輸血医療体制検討委員会
委員長 田中朝志
日本輸血・細胞治療学会
理事長 岡崎 仁

(2) 広島県合同輸血療法委員会設置要綱

広島県合同輸血療法委員会設置要綱

(目 的)

第1条 本会は、医療機関における輸血療法委員会相互の情報交換を図り、広島県内における輸血医療の標準化をめざすものとする。

(構 成)

第2条 本会は次に掲げる者によって構成する。

1. 広島県内医療機関の輸血療法委員会から選出された者（委員長又は副委員長若しくは特に当該機関の長から推薦のあった者）
2. 学識経験者
3. 医師会、病院協会、病院薬剤師会、臨床検査技師会、看護協会から選出された者
4. 広島県赤十字血液センター職員
5. 広島県血液行政担当者
6. その他必要と認められる者

(名 称)

第3条 本会は、「広島県合同輸血療法委員会」と称する。

(役 員)

第4条 本会役員として委員長、副委員長、幹事を置く。

1. 委員長は、委員の互選により定め、会を代表し、必要に応じ会議を招集し、議長となる。
2. 副委員長は、委員の互選により定め、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。
3. 幹事は、定数を含め委員の互選により定め、会議の招集、議題の選定に際し、委員長及び副委員長を補佐する。

(任 期)

第5条 委員の任期は2年とし、再選を妨げない。

ただし、補欠により選任された者の任期は、前任者の残任期間とする。

2. 役員任期は、前項の規定を準用する。

(委員会の開催)

第6条 本会は年1回開催する。（必要に応じ、幹事会を開催する。）

(事 業)

第7条 本会は第1条の目的を達成するため次の活動を行う。

1. 情報交換（医療機関ごとの血液製剤の使用状況など）
2. 輸血医療の標準化
3. 研修会の企画
4. その他血液製剤の適正使用を推進のために必要なこと

(小委員会)

第8条 委員長は、別に定める小委員会設置要綱に基づき、本会内に小委員会を設置することができる。

(事務局)

第9条 本会の事務を処理するため、広島県健康福祉局薬務課及び広島県赤十字血液センター学術・品質情報課に事務局を置く。

(その他)

第10条 本要綱に定めるものの変更等については、本会において協議し定める。

2. 本要領に定めるもののほか、必要な事項は本会において協議し、別に定める。

附 則

この要綱は、平成 23 年 5 月 25 日から施行する。

附 則

この要綱は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要綱は、平成 30 年 7 月 21 日から施行する。

附 則

この要綱は、令和元年 7 月 13 日から施行する。

附 則

この要綱は、令和 5 年 5 月 1 日から施行する。

(3) 小委員会設置要綱

小委員会設置要綱

(設置)

第1条 広島県合同輸血療法委員会設置要綱第8条に基づき、広島県における安全かつ適正な輸血療法の推進に資するため、次の二つの職種ごとに小委員会を設置する。

(1) 臨床検査技師

(2) 看護師

(任務)

第2条 各小委員会は、それぞれの所掌分野について、課題の検討及び解決に向けた活動を行い、必要に応じてその結果を広島県合同輸血療法委員会に報告する。

(構成)

第3条 各小委員会の委員は、広島県合同輸血療法委員会委員長が委嘱する。

2 各小委員会の委員の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する事業の終結の時までとし、再任を妨げない。

(正副委員長)

第4条 各小委員会に委員長及び副委員長を置く。

2 委員長及び副委員長は、委員の互選により定める。

3 委員長は、小委員会を代表し任務を総括する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 小委員会は、各委員長が必要に応じて召集し、委員長が議長となる。

2 委員長に事故のあるときは、あらかじめ委員長が指名する委員がその職務を代理する。

3 委員長は、小委員会を代表し、小委員会の会務を統括する。

4 委員長は、委員のほか、意見等を聞くために必要があると認められる者を会議に出席させることができる。

(事務局)

第6条 小委員会の事務局は、広島県赤十字血液センター内に置く。

(その他)

第7条 本要綱に定めるもののほか、小委員会の運営に必要な事項は、広島県合同輸血療法委員会委員長が別に定める。

附則

この要綱は、平成30年7月21日から施行する。

附則

この要綱は、令和元年7月13日から施行する。

附則

この要綱は、令和5年5月1日から施行する。

(3) 広島県合同輸血療法委員会委員名簿

(令和7年3月時点) ※医療機関の役職は、各機関の輸血療法委員会でのもの

区分	所 属	役職(※)	氏 名
医療機関	広島赤十字・原爆病院 輸血部長	委員長	牟田 毅
	広島大学病院 病院輸血部准教授	委員長	藤井 輝久
	安佐市民病院 血液内科主任部長	委員長	新美 寛正
	呉医療センター 血液内科科長	委員長	伊藤 琢生
	広島市民病院 副院長	委員長	岡本 良一
	福山市民病院 中央手術部長兼麻酔科統括科長	委員長	日高 秀邦
	厚生連広島総合病院 消化管外科主任部長	委員長	香山 茂平
	県立広島病院 心臓血管外科主任部長	委員長	三井 法真
	厚生連尾道総合病院 心臓血管外科主任部長・心臓血管副センター長	委員長	佐藤 克敏
	東広島医療センター 診療部長	委員長	橋本 賢
	呉共済病院 検査部長	委員長	藤原 謙太
	中国中央病院 臨床検査科部長	委員長	瀬崎 伸夫
	福山医療センター 感染症内科医長	委員長	齊藤 誠司
	尾道市立市民病院 消化器内科医長	委員長	大城 勝
	広島西医療センター 血液内科医長	委員長	黒田 芳明
市立三次中央病院 診療技術部長	委員長	丸山 聡	
学識経験者	広島大学 大学院医系科学研究科 (小児科学)	教授	岡田 賢
	広島大学 医療政策室	理事・副学長	田中 純子
	広島大学 原爆放射線医科学研究所	教授	一戸 辰夫
	広島国際大学 保健医療学部医療技術学科	教授	国分寺 晃
	広島都市学園大学 健康科学部看護学科	教授	松原 みゆき
関係団体	一般社団法人広島県医師会	常任理事	落久保 裕之
	一般社団法人広島県病院協会	常任理事	辰川 匡史
	一般社団法人広島県病院薬剤師会	会長	松尾 裕彰
	一般社団法人広島県臨床検査技師会	常務理事	田中 美樹
	公益社団法人広島県看護協会	副会長	黒瀬 真理子
その他	総合病院 庄原赤十字病院 第一検査技術課	課長	佐藤 知義
	広島県赤十字血液センター	所長	麻奥 英毅
	広島県健康福祉局	局長	北原 加奈子
	広島県健康福祉局薬務課	課長	岡田 史恵

(4) 臨床検査技師小委員会委員名簿

(令和7年3月時点)

医療機関名	職名	氏名
県立広島病院 臨床研究検査科	副技師長	藤井 明美
広島市立北部医療センター安佐市民病院 臨床検査部	副技師長	関藤 真由美
呉共済病院 輸血科	係長	宗本 聖
庄原赤十字病院 第一検査技術課	課長	佐藤 知義 (※)

(※) 合同輸血療法委員会役員を兼任

(5) 看護師小委員会委員名簿

(令和7年3月時点)

医療機関名	氏名
広島大学病院	岡 小保子
広島赤十字・原爆病院	板東 幸子
広島市立北部医療センター安佐市民病院	松田 成美
中国中央病院	松井 真智子

(6) これまでの取組

ア 平成 20 年度における「血液製剤使用適正化普及事業」のまとめと展望について

(ア) 国の取り組み状況

昭和 39 年	○血液製剤の国内自給を達成するため、「献血の推進について」を閣議決定
昭和 61 年	○「血液製剤の使用適正化のガイドライン」を策定 血液製剤の使用適正化のため次の 3 基準を設定 ・新鮮凍結血漿の使用基準 ・アルブミン製剤の使用基準 ・赤血球濃厚液の使用基準
平成 11 年	○「血液製剤の使用指針及び輸血療法の実施に関する指針」を策定 「血液製剤の使用適正化のガイドライン」の見直し
平成 15 年	○「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」を施行 「血液製剤の使用適正化」等を法の目的として明文化 ○「安全な血液製剤の安全性の向上及び安定供給の確保を図るための基本的な方針」策定 「血液製剤の適正な使用に関する事項」として、医療機関においては血液製剤の管理体制を整備するとともに、国及び都道府県は、院内の輸血療法委員会、責任医師の任命及び輸血部門の設置を働きかけることとされた。
平成 17 年	○血液製剤の適正使用推進に係る具体的強化方策を提示 都道府県単位で「合同輸血療法委員会」設置を促す
平成 18 年～	○「血液製剤適正使用化方策調査研究事業」を実施 効果的な適正化推進方策の普及を図る ○診療報酬に輸血管理料を新設 医療機関における輸血療法委員会の設置、輸血部門での常勤医師の配置等を基準とした。

(イ) 本県の事業等

昭和 61 年度～	血液製剤適正使用推進の取り組み開始
平成 3 年度～	血液製剤適正使用に関する問題点等を整理、検討を行うための「広島県血液製剤使用に係る懇談会」を設置、開催
平成 13 年度～ 15 年度	国の「血液製剤使用適正化普及事業」を受託 輸血療法等に関する講演会やシンポジウムを開催
平成 16 年度～	「血液製剤使用適正化普及事業」を単県事業として実施 (他県においてもこの事業が打ち切られる傾向にある。)
平成 17 年度～	「広島県輸血懇話会」を開催 広島県赤十字血液センターと(社)広島県臨床衛生検査技師会の共催 (広島県は後援)

(ウ) 血液製剤使用適正化に係る今後の事業について

○ 広島県合同輸血療法委員会の設置

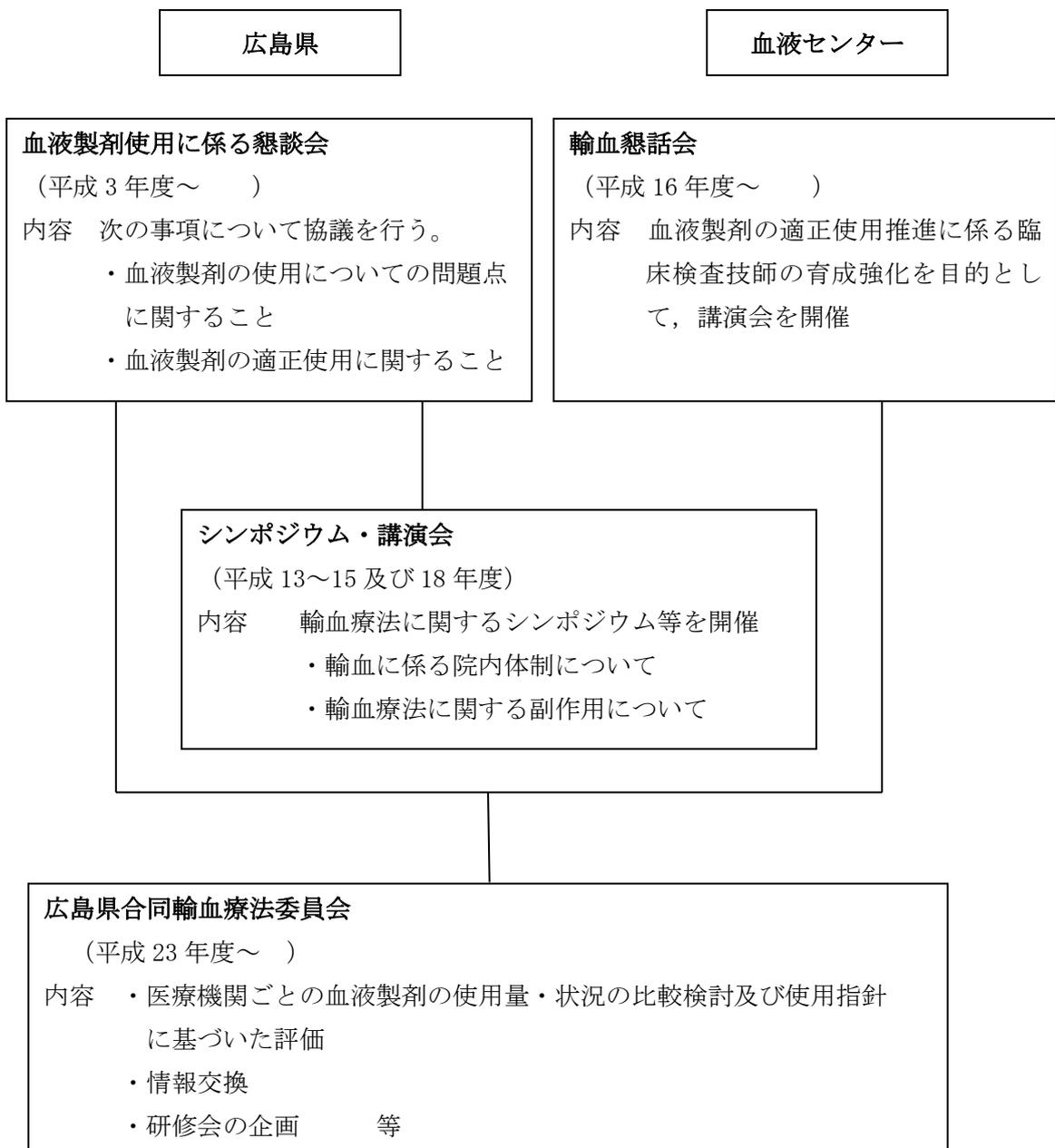
広島県血液製剤使用に係る懇談会及び広島県輸血懇話会を統合・改組し、広島県合同輸血療法委員会を設置する。(事務局：血液センターを予定)

○ 医療機関ごとの血液製剤の使用量等の比較検討・評価，情報交換

各医療機関の輸血責任医師，担当の臨床検査技師，薬剤師等が参画し，他医療機関と血液製剤の使用量・状況を比較・評価するなどして，適正使用を推進する上での課題を明確化し，解消を図る。

○ 研修会の企画・開催

現行の輸血懇話会をベースに，医師等が参加できる体制を整備する。



イ 広島県血液製剤使用に係る懇談会開催状況

開催年月日	事業名	開催場所	内 容
平成13年8月20日	懇談会	県庁会議室	医療用血液の確保について
平成14年3月18日	シンポジウム	鯉城会館	1. 輸血療法のコツ, どんな時に何を選ぶか: 広島大学病院輸血部長 高田 昇 2. 廃棄血防止に向けての取り組み: 国立病院呉医療センター内科長 西浦哲雄 3. 広島県の血液事情について: 広島県血液センター所長 大田信弘
平成14年10月29日	懇談会	県庁会議室	1. 「採血及び供血あっせん業取締法」の一部改正について 2. 血液製剤使用適正化普及事業の概要について 3. 広島県における血液製剤使用適正化普及事業の実施状況について 4. 広島県の血液製剤適正化推進に係る今後の活動方針について
平成15年3月13日	シンポジウム	鯉城会館	1. 非溶血性輸血副作用の臨床経過: 山口大学病院輸血部副部長 藤井康彦 2. 輸血療法のインフォームド・コンセントについて: 広島大学病院輸血部長 高田 昇 3. 広島県の血液事情について: 広島県血液センター所長 大田信弘 4. 血液法の制定について: 広島県福祉保健部薬務室長 鵜池昭二三
平成15年9月2日	懇談会	県庁会議室	1. 採血及び供血あっせん業取締法」及び「薬事法」の一部改正について 2. 血液製剤使用適正化普及事業及び実施状況について 3. 今年度の活動方針について
平成16年1月22日	シンポジウム	鯉城会館	1. 血液及び血漿分画製剤の安全性確保対策: 日本赤十字社血漿分画センター所長 伴野丞計 2. 医療機関と改正薬事法: 広島県福祉保健部薬務室長 鵜池昭二三 3. 血漿分画製剤の使い方～血友病から学ぶ～: 広島大学病院輸血部長 高田 昇
平成17年3月15日	懇談会	〃	1. 血液製剤使用適正化普及事業について 2. 血液製剤使用適正化の推進に係る今後の活動について
平成18年2月22日	懇談会	〃	1. 血液製剤使用適正化普及事業及び実施状況について 2. 血液製剤の供給状況について 3. 血液製剤使用適正化の推進に係る今後の活動について
平成18年10月26日	講演会	〃	1. 「輸血療法の実施に関する指針」及び「血液製剤の使用指針」の改訂について 広島県福祉保健部薬務室 専任主査 島岡 敏 2. 輸血療法に係る院内体制について 独立行政法人国立病院機構呉医療センター副技師長 楠田雅夫 広島市立安佐市民病院 主任臨床検査技師 近藤里美 3. 輸血療法に関する副作用について 神奈川県赤十字血液センター 所長 稲葉 頌一
平成19年3月8日	懇談会	〃	1. 今年度の事業実績について 2. 血液製剤の供給状況について 3. 平成17年度血液製剤使用実態調査結果(中間報告書)の概況について 4. 血液製剤使用適正化の推進に係る今後の活動について

ウ 広島県輸血懇話会の開催状況(主催：広島県赤十字血液センター，共催：(社)広島県臨床検査技師会)

開催日	開催場所	内 容
平成 17 年 3 月 19 日	鯉城会館	血液の安全性向上-ウイルス学的エビデンスをもとに- 広島大学院医歯薬学総合研究科 疫学・疾病制御学 教授 吉澤 浩司
		輸血前後の検査について等の情報と最近の「輸血情報」について 広島県赤十字血液センター 供給課医薬情報係長 山岡 幹子
		アンケートの集計結果について 広島県赤十字血液センター 供給課 課長 中田 一正
平成 17 年 12 月 10 日	ウェルサン ピア福山	血液の安全性向上 広島大学院医歯薬学総合研究科 疫学・疾病制御学 教授 吉澤 浩司
		当院における輸血の現状 厚生連 尾道総合病院 病理研究検査科 科長 高原 孝行氏
		当院における輸血関連業務の一元化の取組みについて (独) 国立病院機構福山医療センター臨床検査技師長 鈴木 円治
平成 18 年 12 月 9 日	八丁堀シャ ンテ	I & A の立場から見た体制整備の方向性について 岡山大学医学部・歯学部附属病院 輸血部副部長 池田 和真
		血液に関する最近の情報提供 広島県赤十字血液センター 供給課医薬情報係長 山岡 幹子
		輸血療法委員会の活動と輸血管理料取得への取組みの状況 中国中央病院 研究検査科 主任検査技師 後藤 光 広島鉄道病院 臨床検査科 臨床検査技師長 橋本 洋
平成 19 年 9 月 22 日	KKR ホテル 広島	赤十字血液センターの将来像について 大阪府赤十字血液センター 柴田弘俊所長
		輸血療法委員会について 広島県薬務室 星野 響
		当院における輸血の安全対策 広島大学病院 診療支援部輸血部門 平岡朝子
平成 20 年 11 月 22 日	八丁堀シャ ンテ	輸血関連急性肺障害-TRALI-について 東京都赤十字血液センター 品質部長 兼 日本赤十字社血液事業本部中央血液研究所 岡崎 仁
		当院における輸血監理業務体制について 楠本病院 臨床検査室 井出 千万子 井野口病院 臨床検査科 金森 歩

エ 広島県合同輸血療法委員会開催状況

開催年月日	事業名	開催場所	内 容
平成23年2月26日	輸血療法 委員会情 報交換会	ホテルグラ ンヴィア	1. 輸血療法委員会の運営状況について 2. 広島県合同輸血療法委員会の設置について。
平成23年7月9日	委員会	ホテルグラ ンヴィア	1. 合同輸血療法委員会の設置について 2. 基調講演「秋田県合同輸血療法委員会による血液製剤適正使用推進」 秋田県赤十字血液センター所長 面川 進 3. 委員会活動方針
平成24年3月10日	研修会	鯉城会館	1. 「輸血療法に関するアンケート」調査報告 広島大学大学院医歯薬学総合研究科疫学・疾病制御学 教授 田中純子 2. 「日本赤十字社が実施する血液事業の運営体制について」 日本赤十字社中四国ブロック血液センター設置準備室副室長 西田一雄 3. 医療機関からの報告 (1)「当院の輸血療法委員会の現状報告」 国家公務員共済組合連合会呉共済病院検査部 主任 荒谷千登美 (2)「救命救急センター併設病院における血液製剤使用の現状」 福山市民病院 中央手術部長 小野和身 4. 特別講演「適正輸血とは何だろう」 ～ガイドラインと輸血の現状から、明日の輸血につなげたいこと～ 東京慈恵会医科大学附属病院輸血部診療部長 教授 田崎哲典
平成24年7月28日	委員会	日本赤十字 社中四国ブ ロック血液 センター	1. 平成 23 年度事業の報告 (委員会, 研修会及び輸血療法に関するアンケート調査) 2. 平成 24 年度事業の検討 3. 特別講演「旭川医科大学病院における輸血療法委員会活動 ～血液製剤適正使用方針の策定とその効果～」 旭川医科大学病院臨床検査・輸血部 准教授 紀野修一
平成25年2月2日	研修会	広島県 情報プラザ	1. 「輸血療法に関するアンケート」調査報告 (広島大学大学院 医歯薬学総合研究科疫学・疾病制御学 教授 田中 純子) 2. 医療機関からの事例発表 (1)「広大病院の輸血の現状」 広島大学病院 准教授 藤井輝久 (2)「当院における輸血療法委員会の活動および現状報告」 国立福山医療センター 山本暖 (3)「当院での輸血療法委員会と輸血の現状」 庄原赤十字病院 佐藤知義 3 特別講演「危機的出血への対応ガイドライン」を生かすために 順天堂大学医学部麻酔科学・ペインクリニック講座 教授 稲田英一

開催年月日	事業名	開催場所	内 容
平成25年7月27日	委員会	KKRホテル広島	1. 平成24年度事業の報告 (委員会, 研修会及び輸血療法に関するアンケート調査) 2. 平成25年度事業の検討 3. 特別講演「輸血用血液の安全性向上への変遷」 広島大学大学院医歯薬保健学研究院 疫学・疾病制御学 教授 田中純子 4. 各医療機関の状況報告及び意見交換
平成26年2月15日	研修会	国保会館	1. 「輸血療法に関するアンケート」調査結果中間報告等 広島大学病院 輸血部部長 藤井 輝久 2. 「訪問相談応需事業について」 1) 相談事業の概要 広島県合同輸血療法委員会委員長 高田 昇 2) 各医療機関の状況について ・「当院における訪問相談後の改善点」 広島市立安佐市民病院 吉森 雅弘 ・「当院における輸血療法委員会の現状報告と輸血訪問相談報告」 JA広島総合病院 笹谷 真奈美 3. 特別講演「全医療人で達成する良質な輸血医療」 福島県立医科大学医学部長・副学長輸血・移植免疫学 教授 大戸 斉
平成26年7月26日	委員会	国保会館	1. 平成25年度事業の報告 (委員会, 研修会及び輸血療法に関するアンケート調査) 2. 平成26年度事業の検討 3. 特別講演「輸血医療の均てん化にチャレンジ 小規模医療施設における輸血医療の特徴とその支援」 金沢赤十字病院 検査部 二木敏彦 4. 各医療機関の状況報告及び意見交換
平成27年1月31日	研修会	県庁講堂	1. 「輸血療法に関するアンケート」調査結果中間報告等 広島大学病院 輸血部部長 藤井 輝久 2. ワークショップ 「どうするんだ!? 輸血前後の感染症検査」 広島県赤十字血液センター 入船秀典, 広島赤十字・原爆病院 楠木晃三 三次市立三次中央病院 熊澤鈴子, 荒木脳神経外科病院 西田麻衣子 3. 特別講演「看護師として実践する Patient Blood Management」 青森県黒石市国民健康保険黒石病院 西塚和美
平成27年6月27日	委員会	中四国ブロック血液センター	1. 平成26年度事業の報告 (委員会, 研修会及び輸血療法に関するアンケート調査) 2. 平成27年度事業の検討 3. 「輸血前後の感染症検査の手順書」に係る各医療機関の状況報告及び意見交換

開催年月日	事業名	開催場所	内 容
平成28年2月6日	研修会	KKRホテル 広島	<ol style="list-style-type: none"> 「輸血療法に関するアンケート」調査結果中間報告等 広島大学大学院医歯薬保健学研究院 教授 田中 純子 「輸血前後の感染症検査の手順書」作成状況等 広島県合同輸血療法委員会 副委員長 藤井 輝久 事例報告 <ul style="list-style-type: none"> ・「possible TRALI 症例について」 国立病院機構呉医療センター 高蓋 寿朗 ・「遅発性溶血性副作用について」 庄原赤十字病院 佐藤 知義 特別講演「知っておきたい輸血の副作用と対策」 山口大学医学部附属病院 輸血部 准教授 藤井 康彦
平成28年6月25日	委員会	中四国 ブロック 血液センター	<ol style="list-style-type: none"> 平成 27 年度事業の報告 (委員会、研修会及び輸血療法に関するアンケート調査) 平成 28 年度事業の検討 「輸血療法におけるヒヤリ・ハット事例」及び「輸血手ひろしま」に関する各医療機関の状況報告及び意見交換
平成29年2月18日	研修会	広島YMCA 国際文化センター国際 文化ホール	<ol style="list-style-type: none"> 報告 <ul style="list-style-type: none"> ・「輸血療法に関するアンケート」結果報告等 ・「輸血療法におけるヒヤリ・ハット事例」 広島県合同輸血療法委員会委員長 藤井 輝久 事例報告 <ul style="list-style-type: none"> ・「輸血前後の感染症検査～輸血手帳ひろしまの活用事例」 広島赤十字・原爆病院 輸血部 芝 昭博 安田病院 臨床検査科 平重 良子 荒木脳神経外科病院 臨床検査科 尾茂 麻衣子 特別講演 <ul style="list-style-type: none"> ・「数字で見る日本の輸血医療の実態」 東京医科大学八王子医療センター 准教授 田中 朝志
平成29年7月1日	委員会	中四国 ブロック 血液センター	<ol style="list-style-type: none"> 役員選出 平成 28 年度事業の報告 (委員会、研修会及び輸血療法に関するアンケート調査) 平成 29 年度事業の検討 「輸血療法の指針と現場の乖離」に関する各医療機関の状況報告及び意見交換

開催年月日	事業名	開催場所	内 容
平成30年2月17日	研修会	広島YMCA 国際文化セ ンター国際 文化ホール	<p>1. 特別講演</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「輸血のチーム医療の中で頑張る看護師」 社会医療法人神鋼記念会 神鋼記念病院 血液病センター 高密度無菌治療室 造血細胞移植コーディネーター 松本 真弓 <p>2. 報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「輸血療法に関するアンケート調査」 広島県合同輸血療法委員会委員長 藤井 輝久 <p>3. パネルディスカッション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「新鮮凍結血漿の使用状況について」 座 長 広島県合同輸血療法委員会副委員長 高田 昇 パネリスト 広島大学病院輸血部 藤井 輝久 広島赤十字・原爆病院輸血部 岩戸 康治 福山市民病院中央手術部 日高 秀邦 福山市民病院臨床検査科 松岡 里佳 庄原赤十字病院検査技術課 佐藤 知義 特別講演講師 松本 真弓
平成30年7月21日	委員会	中四国 ブロック 血液センター	<p>1. 平成 29 年度事業の報告 (委員会、研修会及び輸血療法に関するアンケート調査)</p> <p>2. 平成 30 年度事業の検討</p> <p>3. 講演 「ワーキンググループの設置と活動内容について」 広島国際大学保健医療学部 国分寺 晃</p> <p>4. 情報提供 「平成 30 年 7 月豪雨災害における輸血用血液供給への影響」 広島県赤十字血液センター事務部供給課 課長 三郎丸悦二</p>
平成31年1月27日	研修会	県庁講堂	<p>1. 報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「新鮮凍結血漿の使用状況とその患者予後の検証のための多施設共同研究」 ・「輸血療法に関するアンケート調査」 ・「臨床検査技師ワーキンググループの活動方針について」 <p>2. 特別講演</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「科学的根拠に基づいた輸血療法」 座長 広島県合同輸血療法委員会委員長 藤井輝久 特別講師 奈良県立医科大学輸血部教授（部長） 松本 雅則
令和元年7月13日	委員会	中四国 ブロック 血液センター	<p>1. 役員選出</p> <p>2. 平成 30 年度事業の報告 (委員会、研修会及び輸血療法に関するアンケート調査)</p> <p>3. 令和元年度事業の検討</p>

開催年月日	事業名	開催場所	内 容
令和2年1月25日	研修会	広島YMCA 国際文化センター国際 文化ホール	<p>1. 報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「新鮮凍結血漿の使用状況とその患者予後の検証のための多施設共同研究」 広島県合同輸血療法委員会委員長 藤井 輝久 ・「輸血療法に関するアンケート」調査結果報告 広島県合同輸血療法委員会事務局 ・「臨床検査技師小委員会の活動状況について」 広島県合同輸血療法委員会臨床検査技師小委員会 藤井 明美 ・「看護師小委員会の活動方針について」 広島県合同輸血療法委員会看護師小委員会 植村 高行 <p>2. 特別講演</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「大量出血例に対する適切な輸血療法の検討」 日本赤十字社血液事業本部中央血液研究所 研究開発部長 宮田 茂樹
令和2年11月	委員会	(書面開催)	<p>1. 令和元年度事業の報告 (委員会, 研修会及び輸血療法に関するアンケート調査)</p> <p>2. 令和2年度事業の検討</p> <p>3. 当委員会における輸血後検査の取扱いについて</p>
令和3年3月6日	研修会	(Web開催)	<p>1. 報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「輸血療法に関するアンケート」調査結果について 広島県合同輸血療法委員会事務局 ・「災害時等における医療機関間の輸血用血液製剤の譲受・譲渡に関する指針」 (案) について 広島県合同輸血療法委員会委員長 藤井 輝久
令和3年7月17日	委員会	(Web開催)	<p>1. 役員選出</p> <p>2. 令和2年度事業の報告 (委員会, 研修会及び調査研究事業)</p> <p>3. 令和3年度事業の検討</p>
令和4年2月5日	研修会	(Web開催)	<p>1. 報告及び意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「災害時等における医療機関間の輸血用血液製剤の譲受・譲渡に関する指針」 について」 広島県合同輸血療法委員会委員長 藤井 輝久 <p>2. 特別講演</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「血液搬送装置ATRを活用したへき地・離島を含むブラッドローテーション により新潟県内での血液製剤の有効利用を図る取組」 新潟大学地域医療教育センター魚沼基幹病院血液内科教授 関 義信
令和4年7月2日	委員会	(Web開催)	<p>1. 役員選出</p> <p>2. 令和3年度事業の報告 (委員会, 研修会及び調査研究事業)</p> <p>3. 令和4年度事業の検討</p>

開催年月日	事業名	開催場所	内 容
令和5年2月4日	研修会	(Web開催)	1. 報告 ・「災害時等輸血用血液製剤供給体制の実効性の向上」 広島県合同輸血療法委員会委員長 藤井 輝久 ・「在宅輸血療法アンケートについて」 広島県合同輸血療法委員会委員長 藤井 輝久 2. 特別講演 ・「在宅輸血に係る展望と課題について」 青森県立中央病院臨床検査部長 北澤 淳一
令和5年7月1日	委員会	(Web開催)	1. 役員選出 2. 令和4年度事業の報告 (委員会、研修会及び調査研究事業) 3. 令和5年度事業の検討
令和6年2月3日	研修会	(Web開催)	1. 報告 ・「2023年度「輸血療法に関するアンケート」の調査結果」 広島県合同輸血療法委員会委員長 藤井 輝久 ・「災害時等における医療機関間の輸血用血液製剤の譲受・譲渡(融通)」の実効性の向上」 広島県合同輸血療法委員会委員長 藤井 輝久 2. 特別講演 ・「離島地域への効率的な血液製剤供給～その対策と課題～」 独立行政法人国立病院機構長崎医療センター臨床検査部長 長井 一浩
令和6年7月13日	委員会	(Web開催)	1. 役員選出 2. 令和5年度事業の報告 (委員会、研修会及び調査研究事業) 3. 令和6年度事業の検討
令和7年2月8日	研修会	(ハイブリッド開催)	1. 報告 広島県合同輸血療法委員会からの報告 ・災害時における輸血用血液製剤のドローン輸送に係る情報提供について ・広島県の免疫グロブリン製剤の購入量等の推移について 2. 特別講演 ・「能登半島地震での災害について 奥能登の医療状況と血液センターの対応を中心に」 日本赤十字社東海北陸ブロック血液センター 石川製造所 安村 敏